

令和5年度 独立行政法人日本スポーツ振興センター新博物館展示・運営に関する有識者懇談会
(第4回) 議事要旨

1. 日時 令和6年2月19日(月) 13:00~15:00

2. 場所 独立行政法人日本スポーツ振興センター 外苑事務所

3. 出席者

・委員

池口徳也委員、池田めぐみ委員、伊藤卓司委員、大林太朗委員、栗原祐司委員、黒川仁美委員、
建石徹委員、田良島哲委員、萩原恒昭委員(計9名)

・事務局

JSC 大西(啓)理事、須藤館長、新名学芸員、木村学芸員、三澤主任専門職、寅ヶ口施設部企画調整役

4. 議事内容

議題(1) 第1~3回懇談会の振り返り

事務局より資料1、2について説明があった。委員からの主な意見は以下のとおり。

◆ここまでの感想について

○たくさんの人々に来てもらうために、テレビや映画の撮影に使用してもらい、ゲームの舞台にもらい、インスタ映えするような(SNS)観光名所にするような取組みはどうか。

○スポンサーとの提携をするのはどうか。

○パラスポーツは特別なスポーツという扱いではなく、あくまでもスポーツの一種類というカテゴリーとして扱っていただきたい。

○外国人に大人気の施設があり、説明を行うスタッフが外国語に対応している。何かの実演を時間限定でもいいのでできるといい。

◆収蔵庫が狭いことについて

○博物館の機能をどのように切り分けるか、具体的には図書資料の比重が大きく、これをどう切り出すかが課題。学術研究面のサポートと一般的な来館者向けのサービスの切り分けによってスペースを分ける選択肢もある。図書資料の場合は著作権の問題はあるが、資格のある図書館は電子複製が出来るので、これがクリアできれば閲覧が可能な環境を作れ、地理的な不便さと言うハンディも多少は抑えられる。

○図書の話は重要で、外苑での展開がどうなるかで落とすところをつける必要がある。分館での収蔵展示は研究者へのサービスと関わりが深いと思うので、職員の配置の問題についてもきちんと整理する必要がある。

○新博物館には閲覧室がないため、使いにくい印象がある。図書を全て他の場所へ持って行き、そのスペースを閲覧室や収蔵庫のような使い方をするのはどうか。

○国会図書館にもないと思われる貴重な資料がある。ここにしかない資料について、デジタル化は当然だが、貴館がオリジナルを持っていることが重要。あの膨大な資料群を何とかいい形で世に供することができるとよい。

○未整理段階にある雑誌等、宝の山である。分館の検討は是非お願いしたい。収集の予算も是非手厚く検

討いたきたい。

- アスリートの立場から、新国立競技場などアスリートや人々が集まる場所に大きな図書機能を持たせるのはどうか。書籍を手にとって競技場内で読めたり、試合観戦時に使われている椅子など歴史に触れる場にする。
- スポーツの文化的価値を高めていくために必要な資産を保有する船橋倉庫は宝の山だ。東京 2020 大会以降、大学連携レガシーネットワークという大学の連携組織がある。こうした資産をしっかりと残さないと日本がスポーツを軽視されてしまうということを研究者にも伝えていく必要がある。また、スポーツが社会課題の解決に繋がる時代、スポーツの重要性を次世代の子供達に示すために現物資産を残すことが大切だということを強く申し上げたい。現在大韓民国でも KSPO を中心として新しいオリンピックミュージアムを建設中であり、ソウル 1988 大会のレガシーとして力を入れているので、日本も同様になってほしい。
- 収蔵品の環境が大変だと思った。これからまた増えるので空調管理は必要で、それにはお金がかかり、その費用についてもどのように工面するのか考えておく必要がある。
- 収蔵庫はどこかに確保する必要がある、その際図書館の在り方も検討が必要。一番見つけやすいのは廃校になった校舎かもしれないが、保存の観点から言うと必ずしも使い勝手が良くない可能性もある。大学も少子化等で空いてきている校舎や建物はあるかもしれないので、そういう場所を借りるのもいいのではないかと。大学にとっても、スポーツに関するスタディセンターを JSC と一緒につくったと言えれば双方にメリットがある。収蔵庫の確保は必須であり最優先に考えるべきで、図書館と同時並行で検討してほしい。

◆スポーツミュージアムネットワークの拠点という観点について

- 国立の総合スポーツ博物館というのは唯一である。全国たくさんの体育スポーツ関係の資料館や博物館がいっぱいあるが、学芸員がいない小規模のミュージアムが連携することによって強化を図っていく必要がある、秩父宮記念スポーツ博物館が核になるべきである。新博物館はナショナルミュージアムとしての役割を果たすべきであり、全国のスポーツ博物館のネットワークの拠点として期待することを申し上げたい。
- ネットワークがあれば、展示や協働事業で役立つ。ネットワークは必須であり、中核を担えるのは貴館しかない。日本博物館協会等との連携の形がいい。
- IOC のオリンピックミュージアムネットワーク加盟には厳しいハードルがあるが、加盟できれば IOC のオリンピックミュージアムからも資料等借りられるため、将来的には目指してほしい。
- ネットワークの形成でそれ程お金がかからず効果があるのは研修の開催。そこで顔を突き合わせることでネットワークが自然とできる。研修なら、講師と場所さえ確保すれば、事業としては費用対効果が高く、スポーツ博物館ならではのテーマを継続して研修を続けると秩父宮の存在感を示すことができるのではないかと。
- 学芸員が 4 名いるので、外部講師も視野に入れて全国のスポーツ博物館研修をやることもできる。
- 研修では講師の顔ぶれが重要。船橋倉庫には収蔵品があるので、物を見るだけでも特別な経験になる。工夫次第で魅力的なプログラムが作れるのではないかと思う。
- 研修にアスリートも参加できるといい。セカンドキャリアを考える上で、研究志望者が現役の時に受講の機会があれば、次のことも想定してキャリアアップができる。研修にアスリートが参加することでできるネットワークもあるのではないかと。博物館へ行くアスリートが情報提供の場をつくることができ

るといい。

- スポーツに特化した形での博物館としての機能を国内外含めたネットワークのハブになるのは大変素晴らしい発想。スポーツ博物館としてのネットワークに加えて、ハイパフォーマンススポーツセンター（調査研究）のネットワークとの連携も考えられるのではないか。
- 大会記録やユニフォームだけではなくて、関連するデータや情報等も提供するのでも博物館の役割なのでもっと柔軟に物事を考える必要がある。
- ネットワーク構築について、アンチドーピングのネットワークは人事交流が盛ん。IOC、ICP、JOC、JPC も関わっており、ユネスコ条約も締結している。ネットワークとしては多岐に渡り国際交流も盛んなため、ここから広がるものはあると思う。
- 新博物館開館までに近隣の関係各所と話し合いながら、少しずつネットワークを構築し広げていくのがいいのではないか。
- 文化庁だけではない色々なチャンネルを使って、外向けの展覧会やシンポジウムを対面やハイブリットで行い、ネットワークを構築しながら、貴館がその中心になるのがいい。

◆その他について

- 来館者層について、大学生・大学院生を含めて検討していただきたい。日本の身体文化やスポーツを知ってもらおうという意味では、展示を拝見することもそうだが、インターンや実習の研究協力関係ということも利用者に含め検討いただきたい。
- 貴館の学芸員は権利や契約問題をよく勉強されており、そのスタンスを続けてほしい。デジタルアーカイブについては、アーカイブするだけだと著作権の問題にはならないが、公開する時に問題になる。特に肖像権について引続き検討してほしい。契約は個別の問題になるので、その都度検討、継続して進める。

議題（2）令和6年度の開催案について

事務局より資料3について説明があった。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 新博物館にたくさんの方々に来ていただけるよう来館者ターゲットについて早めの議論が必要。また、近隣施設（特にスポーツ関連）との連携についても議論できるといい。
- 補助金の活用をしてほしい。
- ネットワーク構築に際して、シンポジウム等も継続することが大事。

会議閉会に際して、事務局から議事要旨と資料は準備が整い次第、4回分まとめて当館ホームページにて公開すると事務連絡があった。

（以上）